

門尉景祐モ亦タ和解ヲ謀リ、宍戸善左衛門尉ノ千五百担ニ二百担ヲ加ヘ、千七百担ヲ償ヘ、如何ト、熊谷景郎兵衛尉ニ託シ有怒ヲ請ト雖トモ、更ニ旨セサレハ景祐モ亦去レリ蓋シ柳沢ノ二種ヲ増加ヘキ、自家ノ物ヲ以テ償ヘントナリ、數家ノ謀ル所口如此ニシテ一モ聴從セサレハ、栗山モ已ムヲ得スシテ此夜其源委ヲ詳ニシ、元祥父子ニ告ク

十七日

益田元祥ハ栗山ノ言ヲ聞キ、刑ヲ三人ニ施スヘシト、三浦内左衛門尉元澄・同平右衛門尉重棟ヲシテ井原元以ニ其刑ノ當ル所ヲ問ハシム、何トナレハ天野ヨリ元以ヘ告ケク罪ハ非ナルニ返タリ、而テ今元以・元澄等ニ告ルハ其助命ヲ求ムルニ似タリ、且ツ僕隸ノ賤ト雖トモ告ルハ令ヒ人ナリ、家人ニシテ盗リ、且ツ僕隸ノ賤ト雖トモ告ルハナリト、先ツ澄・重棟以テ為ク、元以ニ告クハ、公裁得サル盗ルヘシト、先ツ澄・重棟以テ為ク、元以ニ告クハ、公裁得サル盗

賊ヲ刑ス宜シキ処分アルヘシ、暫ク待ツ可シト、是ニ於テ二人ノ道ヲ祥ニ告ク、元祥曰ク、既ニ我耳ニ人ヲ宍怒スヘキ道ナシ、元以ニ謀ル所以ハ其刑ノ當ル所ヲ謀ルナリ、他人ノ罪ナレハ我レ之ヲ定ムヘシ、然トモ我ノ家人ニシテ我自ラ裁決セハ、人或ハ偏頗トナスモ測リ難シ、今マ天野ヨリ公ニ告ケス私ニ其罪人ヲ返ス、我モ亦タ公ニ告ケス私ニ告ケト遂ニ殺戮ニ処ス、因テ元澄・重棟之ヲ元以ニ告ク

十八日

益田元祥ノ吏俗ニ肝煎ト云熊谷元直ノ吏同、生駒三郎兵衛尉ヲシテ天野元信ノ吏同上ニ言ハシメテ曰ク、石次三人ハ既ニ其刑ニ処スヲ以テ、其驗トシテ首級ヲ送ラントス、然トモ其事ノ穩ナラサレハ、貴隊ヨリ一人來リ驗閱アルヘシト、天野ノ隊士答ルニ、石盜ヲ刑スルニ主家ノ法ヲ問ハサルハ、何ソヤ見シテ可ナリ、然トモ其罪ノ源委ニ返シ訊問ヲ受ルカ、石ヲ盜ハ僕隸ト難トモ其実ハ栗山ノ意ニ出ルヤ、又ハ栗山ハ嘗テ刑ヲ施セハ、之ヲ公刑ト謂ヘシ、今マ元祥ノ私ヲ以テ之ヲ刑スハ、栗山ノ惡

ヲ掩ハンカ為メカ、抑モ三人ヲ覆治セハ、或ハ其盜竊ノ三人ニ止ラスシテ、他家ノ役丁アルモ測ル可カラサルナリ、然ラシテ今既ニ刑ヲ行ヘハ、前日ノ數ノ如ク其石ヲ償フ可シト、益田ヨリ答ニ、三人ノ盜竊ニ如クスルニ刑戮ヲ以テス、而テ猶ヨリ石ヲ償ハシム、既ニ思慮ノ及ハサル所ナリ、先蹤モアレハ公ニ告ケ上裁ヲ待ヘシトナリ

廿一日

天野元信ノ隊士石ノ償ヒヲ益田ニ責ムル頗ル激切ナレハ、元祥遂ニ奉行役ニ達ス

廿四日

天野五郎右衛門尉元信・牧野次郎右衛門尉・佐波次郎左衛門尉・實ヨリ盜石ノ始末ヲ記シ、善奉行役井原四郎右衛門尉元兼・佐世長門守元嘉・榎本中務大輔元吉・兒玉若狹守元兼・渡辺飛驒守長ニ訴フ

廿六日

天野・益田搬石ノ論争、宍道五郎兵衛尉政慶・宍戸善左衛門尉等和解ヲ謀ルト雖トモ其事協ハサレハ二人旨趣ヲ詳載シ遂ニ奉行役ニ出ス

廿七日

周防国分寺中院九宇多年祈祝ノ勞アリ、公之ヲ聞キ其賞トシテ近村ノ地ヲ頒チ各宇ニ采地ヲ賜フ、佐世長門守其命ヲ伝フ

廿八日

公、益田元祥及ヒ景祥ヲ召シ、密旨ヲ授ク、二人榎本中務大輔元吉ニ就キ誓書ヲ上リ、機密ノ議ハ謹テ漏洩ス可ラサルヲ要ス

二十日

佐武彦右衛門尉卒シ、嗣子ナク幼稚ノ女子アリ、同族三郎右衛門尉元真ノ息弥八郎元好ニ公役ヲ奉セシメ、女子成元ノ日ヲ待チ佳婿ヲ択ヒ、其家ヲ継カシムヘキト、井原元以・榎本元吉其令ヲ伝フ

五日 岩武弥十郎ヲ助右衛門尉ニ任ス

十五日 新將軍伏見ヲ発スルヲ以テ、公大津駅ニ至リ其婦ヲ送ル、將軍大ニ悦フ、蓋シ列藩ニ禁シ發程ヲ送ル無カラシム、然トモ公親寵ノ殊異ナルヲ以テ是挙アリ

十六日 天野元政・宍戸元統・渡辺長ニ書ヲ賜ヒ、昨日將軍ヲ大津ニ送り、其待遇ノ渥キヲ陳シ、列侯暇ヲ告ケ、国ニ就クヲ以テ我モ亦夕近日帰程ニ上ラントス

六月大

九日 公嘗テ吉川広家ニ命セシ事アレハ、広家ヨリ井原四郎右衛門尉元以ニ就キ誓書ヲ上ル、其文ニ曰ク、公ノ命スル所ハ謹テ其旨ヲ奉ス、広家奉仕ノ志ハ前年ト渝ル無シ、将来密旨ノ令アルトキハ誓テ他ニ洩ス無カラントナリ

十日 公内旨ヲ福原広俊ニ視ス、広俊一通ノ誓書ヲ上ル、其

文ニ曰ク、臣ノ心衷ハ嘗テ表スル如ク、丹誠無二毫モ渝ル無シ、施政ノ際失誤アラハ忌諱ヲ憚カラス、匡救補翼スヘシ、又タ其事ノ機密ニ涉ルハ其旨ヲ奉シ、戒メテ他ニ洩ス無シ、今ヨリ以往纒構ニ出ルアラハ、訊問ヲ賜ハリ、明覈ナラシメントス、若シ是言ノ詐妄ナラシメハ神明ノ罰殛ヲ蒙ル可シトナリ

廿八日 内藤与四郎ニ加冠シ偏諱ヲ賜フ

七月小

二日 熊谷豊前守元直ヲ誅ス、蓋シ天野元信ノ争論ニ党援シ、

終ニ大難ヲ醸成セントス、稂莠ヲ除ハ嘉苗ヲ養フ、悪木ヲ伐ル可カラズトス、議一決シ、宍戸弥十郎富家ノ治安ヲ求ムニ力ヲ盡シ、先ツ妙悟ノ僧ヲ元直ノ宅ニ遣ハシ、罪惡ニ加ヘシム、致セハ刑免シテ罪ヲ説キ、自裁ヲ勸メシム、彌十郎縛スヘシトテ、腰刀ヲ脱シテ罪ヲ擲シトセハ、彌十郎縛スヘシトテ、腰刀ヲ脱シテ罪ヲ擲シト就ク、彌十郎縛スヘシトテ、腰刀ヲ脱シテ罪ヲ擲シト

二元直夫妻皆ナシ、元直訪ヒ其坐ニ在リ、

是日綿貫九郎右衛門尉某・元政家臣財満彦兵衛尉某・井原元以左衛門尉等ハ元直ヲ訪ヒ其坐ニ在リ、

天野五郎左衛門尉ハ築城石垣ノ任ヲ受ケ、日々其事ニ勤力ヲ竭キ、少ナカラス、

陽和順ヲ表シ、雖モ陰謀ニ心ヲ包蔵シ、熊谷元直ト謀リ、互ニ相党援シ、密ニ隊ヲ誘シ、大獄ヲ起サントス、遂ニ殺スヘキニ決テ、是於テ公事ニ托シ、

トテ、遂ニ召ス、元直嘗テ之ヲ知ラス、逆旅ニ在リ、

元信山ノ双刀ヲ脱シ、適意ニ馳去ル、

旅装ヲ解キ、右衛門尉重棟等馳去ル、

綱浦平右衛門尉元直ノ逆旅ニ就キ命ヲ傳フ、

フ、把元信間章ス、元直赤拳迎ヘ戦フト、

キ支ルハ、衛尉遂ニ斃ル、

三輪八郎兵衛尉元直ノ父加賀守元直ノ替御タラシム、

而テ其深恩厚沢ニ違背シ、忘棄シ、父ノ功ニ誇リ放肆暴戾ニシテ法令ニ違背シ、党援ヲ為シ、少ナカラス、

元直ノ心ナク、長刀ヲ帶シ、元直ノ心ナク、長刀ヲ帶シ、

テノ左右ヨリ撃ツ、元直ノ心ナク、長刀ヲ帶シ、

モ遂ニ双刀ノ下ニ斃ル
中原善兵衛尉某ハ三輪元祐ノ党ナレハ、庄原市郎兵衛尉元信・山縣市兵衛尉元則ニ命シテ之ヲ誅セシム、二人中原ノ宅ニ至レハ、善兵衛尉既ニ之ヲ覚知シテ其至ルヲ迎ヘ撃テ出ツ、庄原・山県身命ヲ顧ミス奮闘ス、三人相刺撃シ遂ニ俱ニ死ス

熊谷元直夫妻ノ罪惡ヲ歴挙スルニ、誅戮ヲ免ル能ハサルナリ、往年豊臣氏ノ大仏ヲ營造スル、芸国ニ令シ大木巨材ヲ出サシメ、檜崎彈右衛門尉元兼ニ命シ運漕セシム、是時元直モ亦タ丁夫ヲ出シ其役ヲ助ケシム、而テ之ヲ拒ミ出シ肯ヘンセス、独リ己ノ丁夫ヲ出サ、ルノミナラス、他ノ丁夫ヲ支ヘ妨碍ス、其

上ヲ慢シ令ニ背ク、其罪ノ一ナリ、征韓ノ役釜山浦ニ在リ、元直先鋒ノ任ヲ受ケ、別路ニ出テ特進スルヲ以テ兒玉又兵衛尉ヲシテ呼ハシム、己レ聞カサルヲ為シテ遂ニ返ヘラス、軍ニ在リ律ヲ犯ス、聞カサルヲナリ、又タ韓地ニ在リ、村上三郎兵衛尉景親ノ衆ニ某ト舌頭ノ論靜アリ、公ニ聞セス、先ツ大坂ノ衆ニ告ク、是レ上ヲ後ニシ、外ヲ主トス、其罪ノ三ナリ、韓地ニ在リ、諸將ヲ天野元政ニ属シ、城ニ遣ハス、元直其令ニ背キ、却テ元政ヲ衆ニ惡ス、其罪ノ四ナリ、命ヲ不廉ナリト譏議ス、ア罪ノ五ナリ、大坂ニ告ケ、堤防修築ノ役ニ窃ニ謀ヲ設ケ、命ヲ令ノ平ナラサルト称シ大府ノ吏ニ告ケ、元直益夫妻傾陰謀ヲ違シ、元清ヲ欺罔シ、配スルニ佐波越後守ノ女ヲ以テ和、而テ深密ノ旨趣、ア配スルニ佐波越後守ノ女ヲ告シム、其罪ノ七ナリ、兒玉若狭守元兼ヲ娶シ、其旨先ツ秀就公ニ聞シ、可ナリ、有地、小吉ニ嫁スル、之ヲ聞先規ナリ、元直己ノ女ヲ受ケ、而テ其約ヲ結スル、是レ其

セス、又タ其女ヲ他ニ嫁セントシ、公ノ命ト称シ約ヲ破リ、吉川広家・新庄大方、而テ親迎ノ期ニ臨ミ、少輔九郎元景ニ嫁セントシ、而テ其約ヲ變シ、佐波二郎直夫妻ヨリ大方ニ嫁ス、広家及ヒ大方、其己ヲ売ルヲ怒ル、郎左衛門尉ニ嫁ス、広家及ヒ大方、其己ヲ売ルヲ怒ル、

其罪ノ八ナリ、元清ノ病ヒ危篤ノ日、元直己ノ孫ヲシテ其家統ヲ承ケシム、前シテ元直ノ宣言シ、家臣ヲ備後ニ遣ハシ、私欲ヲ行フ、償米破約ト宣言シ、而上ノ令スル所ハ謹テ奉行スヘキ、其罪ノ十ナリ、凡ソ、而テ令スル所ハ謹テ奉行スヘキ、ハ国家ノ恒典ナリ、而テ令スル所ハ謹テ奉行スヘキ、シテ其暴挙ニ党援セシム、其罪ノ十一ナリ、往年江戸城土木ノ事アリ、本藩ヲシテ其役ヲ助ケシム、元直利秀ノ工事ヲ司ラシメ、忠興ヨリ幕府ニ請ヒ、長岡越中守忠興ニ嫁セシム、聞知セサ

ル、シ、堀尾氏モ亦タ同ク、其役ヲ助ケ、工事ヲ司ル吏元多シ、堀尾氏モ亦タ同ク、其役ヲ助ケ、工事ヲ司ル吏元ム、リ、以テ、福原俊直ノ機密ヲ外聞ニ洩ス、最モル、リ、以テ、福原俊直ノ機密ヲ外聞ニ洩ス、最モル、毛利秀元ノ請ヒ、長岡越中守忠興ニ嫁セシム、聞知セサ直ト僚ナレハ、元直其吏ニ謂テ曰ク、毛利氏勲ノ臣ニ佐波越後守アリ、且ツ國ヲ脱シ浮浪トナルト、堀セハ必ス応ヘシ、且ツ國ヲ脱シ浮浪トナルト、堀尾氏ヨリ圭庵詳テ招キ、問尋アリタルヲ越後守ニ告ク、越後守嘗テ知ラサレハ益田元祥・宍道政慶ニ就キ、一々之ヲ分疏ス、其罪ノ十三ナリ、或曰ク、元直公命ヲ不廉ナリト譏議ス、ア罪ノ五ナリ、大坂ニ告ケ、堤防修築ノ役ニ窃ニ謀ヲ設ケ、命ヲ令ノ平ナラサルト称シ大府ノ吏ニ告ケ、元直益夫妻傾陰謀ヲ違シ、元清ヲ欺罔シ、配スルニ佐波越後守ノ女ヲ以テ和、而テ深密ノ旨趣、ア配スルニ佐波越後守ノ女ヲ告シム、其罪ノ七ナリ、兒玉若狭守元兼ヲ娶シ、其旨先ツ秀就公ニ聞シ、可ナリ、有地、小吉ニ嫁スル、是レ其

二至ル、然トモ有功ノ家ヲ以テ暫ク宥恕ヲ加フ、而慢語忌憚ナシ、ケレハ、罪ノ十五ナリ、我ハシ、難シト、君臣ノ義、雖モ、更ニ、聴、益、心、奉、仕、ハ、シ、毛、利、氏、多、キ、有、五、ト、雖、モ、更、ニ、聴、益、心、奉、仕、ハ、シ、毛、利、氏、多、キ、有、五、

テ益田・天野二家ノ隊士論争ノ起ル、和解ノ術ハ為
サスシテ、却テ天野ニ党援シ、国難ヲ醸シ大獄ヲ起
サントス、大逆無道ナレハ遂ニ重罪ニ処セラレシナ
リ
天野五郎右衛門尉元信ハ、往年征韓ノ役、穴戸元統ニ
属シ蔚山城ニ在リ、敵兵来リ犯シ、第三郭ヲ攻ム、統
信ニ命シ出テ禦カシムルニ、窃ニ城ヲ出テ大坂ニ至リ
大津城ヲ保守セシムルニ、今段築城ニテ奉行役ノ命
妻孥ヲ泉州堺ニ脱ス、而テ今段築城ニテ奉行役ノ命
ヲ受ケ、公ヨリ禁令ヲ下シ、協心戮力其功ノ速ニ竣
セシコトヲ警シ、墨痕未タ乾カサルニ、忽チ盜石
ノ議ヲ生シ、墨痕未タ乾カサルニ、忽チ盜石
失ヒ命ニ背ク、其誅戮ヲ免レサル亦宜ナラスヤ
柳沢三左衛門尉景祐ハ熊谷誅伐ノ事ヲ掌トリ、其処分
ヲ為シ心ヲ勞シ、遂ニ其事ヲ誤ラス、公感賞ノ意ヲ伝
フ
佐世元嘉・榎本元吉連署ノ書ヲ授ケ、公感賞ノ意ヲ伝
フ

三日
熊谷元直姦惡ノ挙多ケレトモ、福原広俊姻戚ナレハ其

罪ヲ不問ニ附シケルカ、天野元信ニ党シ禍乱ノ兆アレ
ハ、已ムヲ得ス、嚴刑ニ処セラレタリ、因テ今日公ヨリ
書ヲ広俊ニ賜ヒ、其始末ヲ陳説ス、又タ木原次郎兵衛
尉元定ヲ岩国ニ遣ハシ、熊谷元直夫妻・天野元信等ノ
事其源委ヲ詳記シ、元直叔父藤左衛門元辰ト称ス、別ニ家ヲ立ツ及ヒ大方ニ報知ス、熊谷玄蕃
允就真入道玄要藤左衛門元辰ト称ス、別ニ家ヲ立ツハ是時
吉川ニ属シ岩国ニ住シ、其子藤左衛門尉元辰菼ニ在リ
ケルカ、皆ナ元直ニ与セ、且ツ信直ノ勲勞ヲ以テ
テ采地ノ如ク賜ハリ、佐世元嘉ヲシテ書ヲ香川又左
衛門尉・桂但馬守・今田平右衛門尉ニ贈リ、先ツ其旨
ヲ傳へ、井原元以・佐世元嘉・榎本元吉連署シテ命ヲ
就真ニ伝フ

四日
桂三郎兵衛尉元綱ニ書ヲ賜フテ天野元信ヲ誅殺スルノ
功ヲ賞譽ス
熊谷太郎右衛門尉元吉ハ宗家元直ノ惡ニ党援セスト雖
トモ、討伐ノ日宗家ニ至リ守衛ノ態アレハ、死一等ヲ
減シ、邦外へ放黜セシム

レハ波越後守広忠ハ熊谷ノ姻戚ト雖トモ、其惡ニ党セサ
ルヲ知ラス熊谷ノ宅ニ至リ其難ニ遇フ、公其無慮ノ死
ヲ憫ミ、広忠ノ采邑ニ於テハ異議ナキヲ以テ、井原元
以・佐世元嘉・榎本元吉ヲシテ連署ノ誓書ヲ以テ其命
ヲ傳ヘシム

天野勘左衛門尉・同彦左衛門尉ハ同族元信山口ニテ誅
戮ヲ被ルノ日、彼ノ宅ニ至リ守禦ノ状アルヲ以テ邦外
ニ放逐セシム

八日
佐波越後守広忠ヨリ井原元以・佐世元嘉・榎本元吉ニ
就キ、熊谷元直・天野元信ハ姻戚ノ好アリト雖トモ其
心術行事疑ヘキ多ケレハ嘗テ党与セス、書ヲ上リ之ヲ
分疏ス

九日
熊谷玄蕃入道玄要モ亦タ佐世元嘉ニ就キ至誠無二忠貞
ヲ効スヘシト赤心ヲ表ス、公書ヲ玄要ニ賜ヒ、元直ノ
故ヲ以テ毫モ疑心ヲ挟マサレハ安堵スヘキトナリ

十日
佐世元嘉ヨリ書ヲ熊谷玄蕃入道玄要ニ贈ル、其文ニ曰
ク、来書ノ意既ニ公ニ啓シ手書ヲ賜フ、而テ公謁ヲ貴
息藤左衛門ニ賜ヒ宗家罪アルヲ以テ疑ハサルノ意ヲ諭

告シ、且ツ別ニ俸禄ヲ賜ハントス、是レ特典ニ出ツ、
能ク其旨ヲ領スヘシ、足下ハ広家ト同シク菼ニ来ル可
シ、唯タ速ナルヲ可トセハ其時日ヲ記シ以テ報スヘシ
トナリ

十一日
福原広俊伏見ニ在リ、熊谷元直等ノ事ハ公書ヲ賜フテ
其始末ヲ報ス

十三日
公専使ヲ伏見ニ遣ハシ、書ヲ福原広俊ニ賜ヒ熊谷元直
等伏誅ノ状ヲ報ス

廿三日 福原広俊ヨリ一人ヲ遣ハシ、惡逆無道ノ臣速ニ株戮ニ伏シタルヲ賀ス、公モ亦書ヲ賜フテ其意ニ答フ

廿八日

天野新兵衛尉元珍ハ元信ノ兄ト雖トモ、元信ニ党セサレハ、其父隆重ノ勲功ヲ思ヒ、操守ノ確タルヲ嘉賞シ、采地旧ノ如ク安堵セシム、因テ元珍ヨリ井原元以・佐世元嘉・榎本元吉ニ就キ誓書ヲ上リ、君恩ノ優渥ヲ拜シ元信ニ党セサルヲ証シ、之ヲ神明ニ要ス

○右の綱文は八月二十八日のもの。実録編さん時の誤りか。

八月大

二日 穴戸弥十郎ハ熊谷元直ヲ誅ス先驅タレハ、其功ヲ賞シ、
祭衣俗稱一稱・刀一口ヲ賜フ、綿貫九郎右衛門尉モ亦タ魁タリト雖トモ重傷死スルヲ以テ、公之ヲ憫ミ書ヲ其子ニ下シ、米十苞ヲ賜ヒ香花ノ資ト為サシム
天野元政入道ノ臣財満彦兵衛尉其他一人俱ニ先驅シテ闘死ス、公書ヲ元政入道ニ賜ヒ其功ヲ褒賞ス
天野元信ヲ誅スル初刀ハ桂三郎兵衛尉元綱、次刀ハ三浦平右衛門尉重棟ナリ、元綱ヲ賞スルニ刀一口・絮衣一稱・米三十苞ヲ以テシ、重棟ヲ賞スルニ刀一口・絮衣一稱ヲ以テス
三輪八郎兵衛尉ノ誅セラル、香川彦左衛門尉・河野太郎兵衛尉命ヲ受ケテ往キ、八郎兵衛尉迎フ、二人進ミ撃チ遂ニ八郎兵衛尉ト相共ニ死ス、河野・香川ニ刀各一口ヲ賜フ
中原善兵衛尉モ亦タ熊谷元直ニ党与シ、庄原一郎兵衛尉・山口市兵衛尉ニ命シ誅セシム、各勇奮劇闘シ遂ニ善兵衛尉ト相刺シテ死ス、公之ヲ憫ミ、且ツ其勇ヲ賞シ、一郎兵衛尉ノ子新三郎ニ賜ニ書及ヒ腰刀一口ヲ以テシ、外ニ米拾苞ヲ賜ハリ香花ノ資トナス、而テ市兵衛尉ハ男子アリテ猶フ幼稚ナレハ、書ヲ其父平右衛門尉元吉ニ賜ヒ教育力ヲ竭サシム

四日

公書ヲ福原広俊ニ賜フ、蓋シ広俊伏見ニ在レハ、熊谷・天野既ニ株戮ヲ蒙リ、其始末ヲ告クト雖トモ、猶ホ其罪状ノ源委等ニ至リテハ遺洩アルヲ以テ、詳載シテ再ヒ之ヲ贈ル

廿三日 防州山口多賀社神官高橋虎寿ヲ左近大夫ニ任ス

九月小

九日 伊達清藏ニ加冠ス

廿五日

井上藤右衛門尉元信ニ命シ、其父善兵衛尉元忠ノ後ヲ承ケ奉仕ヲ勤励セシム

廿八日

長州阿武郡三見村八幡社々領ヲ、佐世元嘉ヨリ田簿ヲ製シ神官雅楽允ニ与フ

十月小

九日 三浦与四郎ニ加冠シ、偏諱ヲ賜ヒ元実ト称ス

○右の綱文は慶長八年十月九日のもの。実録編さん時の誤りか。

十七日 桜井小三郎ニ加冠シ偏諱ヲ賜フ

廿七日

防州山口多賀社々領三井善兵衛尉・斎藤四郎兵衛尉・木原九郎兵衛尉連署シテ田簿ヲ神官民部太夫ニ与フ

十一月大

五日 防州都濃郡長穂村龍文寺住持職、先住咲外和尚ノ附嘱ヲ以テ参嶺和尚ニ命シ、入寺セシメ寺務ヲ勤励シ灑掃ニ怠慢ナカラシム

十二月小

ハス、遂ニ前好ヲ失ヒ、国家ノ大任ヲ遺棄セハ、輕重
阜、白ヲ弁セサルニ似タリ、今ヨリシテ後チ親睦、旧ニ復
シ、休戚ヲ社稷ト共ニシカ、國事ニ竭クサント、是ニ
於テ秀元モ亦タ宿憤ヲ散シ、答詞ヲ裁シ、二家ノ怨ミ
忽チ融積シ復タ片暲ヲ存ス、秀元ヨリ福原俊・井
原元以・榎本元吉・佐世嘉ニ就キ書ヲ奉スル、其
文ニ曰ク、榎本元吉ハ二家怨隙ヲ解キ兩公ニ上ル、二
心ナク國事ニ勤勞スヘシトナリ、元祥モ亦タ四人ニ就
キ書ヲ上ル秀元ト同シ、既ニシテ、毛秀元・吉川
ノ書ヲ賜ヒ、隙ヲ生スルアハ、心ヲ協セテ力ヲ戮セテ
公書ヲ賜ヒ、今ヨリシテ、後チ愈々ノ患ヲ無カセテ
睦相謀リ、邦ノ為ニ深慮遠謀シ、外侮ヲ受ル無カシム
シト、盟書ヲ以テ同心シテ宗社ニ屏藩タルヲ視サルム
ヘ

廿六日
毛利秀元・吉川広家二人輯睦シ社稷ヲ輔翼スヘキノ命

アルヲ以テ、二家誓書ヲ交換シ今日藩屏タルヘシトナ
リ
秀元ノ老臣相杜下總守元縁・西次郎左衛門入道以節・
上里藤右衛門尉規貞・西孫兵衛尉元由・福原大炊頭清・
永・伊秩采女正元恵連署シテ誓書ヲ上ル、其文ニ曰ク、
今段公命アリテ吉川家ト輯睦相親マシム、無シ、等謹テ其
命ヲ領ス、ア群臣固ヨリ其旨ヲ奉戴セサル、臣等謹テ其
犯スルアラハ速ニ糾明ヲ蒙リ、公ニ告ケル、刑ニ処ス
ヘシトナリ(後略)